

第423号

鳶の教会

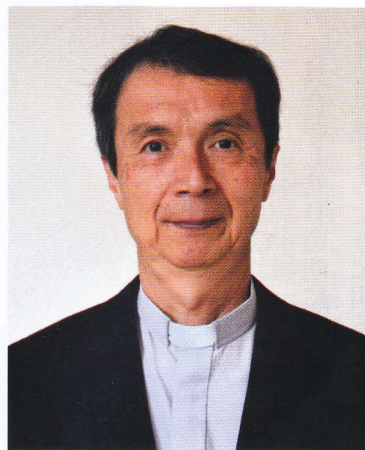
日本聖公会
川越キリスト教会

〒350-0056 川越市松江町 2-4-13 (牧師) 司祭 パウロ鈴木伸明 ☎049-222-1429 FAX049-222-2056
http://www.kawagoe-seikoukai.org/ (編集) 文書部 ルカ 野澤 達也

2022 年度宣教テーマ 「わたしの家はすべての民の祈りの家(聖書) — 煉瓦の聖堂100周年 —」

宣教の戦略

司祭 ヨハネ 小野寺 達
おのてら いたる



私の息子が大学生の時に「英語を身につけたいので一年間アメリカに行きたい。今の自分にはその費用が無いので、僕の結婚資金を充当して欲しい」と言い出したのは、今から15年近く前のことだった。2回生の年度終了後、ほぼ一年間の語学留学したため、彼は5年かけて大学を卒業したが、その成果はお金では代え難い貴重なものになったようだ。

彼は、アメリカの大学が開設する10ヶ月の語学コースに通ったが、それだけでなく、退職牧師が自宅で主催する週末の食事付き集会に参加して英語で会話する機会を得たり、その地のバスケットボールチームの練習に誘われたことをきっかけに(トップリーグではないものの)プロ公式戦のメンバーにも加わり、出場時間はあまり多くはなかったが実際にプレーする機会も与えられ、英語力を身につける以上の充実した時を過ごしてきた。帰国してからはその経験を生かして大学生生活の後半を送り、卒業後も当時の教会の牧師やバスケットボールのコーチを訪ねている。

大学卒業後には、アメリカのキリスト教宣教団体が日本の大都会の新興開発地域で人間関係をつくる機会に恵まれない在留外国人やその地域に住む人々のコミュニティ形成のためのプログラムを組み、彼はその団体が主催する子どもバスケットボール教室で「英語で対話のできるバスケットのコーチ」としてその企画や子ども支援にも関わった。そこでは、週末のバスケットボール教室に集まる色々な国の子どもたちの関係が生まれ、付き添う保護者たちの関係作りに宣教師たちが関わり、無機質な都会の片隅に多国籍の人々の交わりが生まれ、その中からその宣教団体が行う日曜日の礼拝に出席する人たちも起こされてきたという。そこには来日後どの教会に行けば良いのか

分からなかったという人たちもいて、その人たちにとっての良い主日礼拝の場を提供できたことも想像される。私には、息子のこうした経験がとても刺激的であった。そこから学ぶべきことは、宣教の具体的方法ではなく、人々の必要や求めが何であるかを日頃から考え、それを理解して支援しながら、その交わりに働く霊的な力に双方が生かされることなのではないだろうか。あるいは、人々の必要を満たすだけではなく、その活動を通して与えられる霊の交わりに感謝し、その楽しさと充実感を主催者も参加者も共有できるかどうか。その戦略が成功するかどうかに関わっているのではないだろうか。

私は、息子から「お父さんの遣わされている教会では、どのような宣教の戦略があるのか」と尋ねられたことがあった。

私たちの「宣教の戦略」は、大袈裟でなくて良いだろう。聖歌を歌う人々、聖書を聞きそこに学ぼうとする人々、祈り合う人々、子どもたちの交わりに集う人々、その群れに加わろうとする人を迎え入れる心、それらの働きそのものが「宣教の戦略」となるだろう。

(東松山聖ルカ教会囑託勤務)